

小学部 5・6年生 音楽 年間計画

【3段階】(指導要領 P161～)

指導内容	単元名 (仮)
<p>ア 歌唱の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 教科別の指導 生活単元学習 日常生活の指導</p> <p>(ア) 歌唱表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、歌唱表現に対する思いをもつこと。</p> <p>(イ) 次の㊦及び㊧について気付くこと。 ㊦ 曲の雰囲気と曲の速さや強弱との関わり ㊧ 曲名や歌詞に使われている言葉から受けるイメージと曲の雰囲気との関わり</p> <p>(ウ) 思いに合った歌い方で歌うために必要な次の㊦から㊨までの技能を身に付けること。 ㊦ 範唱を聴いて歌ったり、歌詞やリズムを意識して歌ったりする技能 ㊧ 自分の歌声の大きさや発音などに気を付けて歌う技能 ㊨ 教師や友達と一緒に声を合わせて歌う技能</p>	<p>○のびのびと うたおう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・かくれんぼ ・はるがきた ・タヤけこやけ ・虫のこえ ・小犬のビンゴ(鑑) <p>○ドレミで あそぼう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドレミのうた ・かえるのがっしょう
<p>イ 器楽の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 教科別の指導 生活単元学習 日常生活の指導</p> <p>(ア) 器楽表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、器楽表現に対する思いをもつこと。</p> <p>(イ) 次の㊦及び㊧について気付くこと。 ㊦ リズム、速度や強弱の違い ㊧ 演奏の仕方による楽器の音色の違い</p> <p>(ウ) 思いに合った表現をするために必要な次の㊦から㊨までの技能を身に付けること ㊦ 簡単な楽譜などを見てリズム演奏などをする技能 ㊧ 身近な打楽器や旋律楽器を使って演奏する技能 ㊨ 教師や友達の楽器の音を聴いて演奏する技能</p>	<p>○くりかえしを みつけよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やまびこごっこ ・トルコ行進曲(鑑) <p>○リズムに のろう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いるかはざんぶらこ ・はしのうえで ・たぬきのたいこ
<p>ウ 音楽づくりの活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 教科別の指導</p> <p>(ア) 音楽づくりについての知識や技能を得たり生かしたりしながら、次の ㊦及び㊧をできるようにすること。 ㊦ 音遊びを通して、音の面白さに気付いたり、音楽づくりの発想を得たりすること。 ㊧ どのように音を音楽にしていくかについて思いをもつこと。</p> <p>(イ) 次の㊦及び㊧について、それらが生み出す面白さなどと関わって気付くこと。 ㊦ 声や身の回りの様々な音の特徴 ㊧ 簡単なリズム・パターンの特徴</p> <p>(ウ) 気付きや発想を生かした表現や、思いに合った表現をするために必要な次の㊦及び㊧の技能を身に付けること。 ㊦ 音を選んだりつなげたりして表現する技能 ㊧ 教師や友達と一緒に音楽の仕組みを用いて、簡単な音楽をつくる技能</p>	<p>○たがいの おとを きこう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こぐまの二月 ・山のポルカ ・エンターテイナー(鑑)
<p>エ 身体表現の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 教科別の指導 生活単元学習 日常生活の指導</p> <p>(ア) 身体表現についての知識や技能を得たり生かしたりしながら、簡単なリズムや旋律の特徴、歌詞を感じ取り、体を動かすことについて思いをもつこと。</p> <p>(イ) 次の㊦及び㊧の関わりについて気付くこと。 ㊦ 曲のリズム、速度、旋律 ㊧ 曲名、拍やリズムを表す言葉やかけ声、歌詞の一部</p>	<p>○日本のうた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ずいずいずっこぼし ・なべなべそこぬけ <p>※国歌「君が代」は、時期に応じて適切に指導する。</p>

A
表現

	<p>(ウ) 思い合った体の動きで表現するために必要な次の㊦から㊨までの技能を身に付けること。</p> <p>㊦ 示範を見たり、拍やリズム、旋律を意識したりして、身体表現をする技能</p> <p>㊧ 音や音楽を聴いて、様々な体の動きで表現する技能</p> <p>㊨ 教師や友達と一緒に体を使って表現する技能</p>	
B 鑑賞	<p>ア 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。 教科別の指導</p> <p>(ア) 鑑賞についての知識を得たり生かしたりしながら、曲や演奏の楽しさを見いだして聴くこと。</p> <p>(イ) 曲想や楽器の音色、リズムや速度、旋律の特徴に気付くこと。</p>	
共通事項	<p>(1) 「A表現」及び「B鑑賞」の指導を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。</p> <p>ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じとったこととの関わりについて考えること。</p> <p>イ 絵譜や色を用いた音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて、その意味に触れること。</p>	<p>(指導要領 P171～)</p> <p>歌唱 ※学習のねらいなどに即して移動唱法を用いて指導することで、音と音との関係を捉えるという相対的な音程感覚が身に付くようにする。</p> <p>器楽 (取り扱う楽器) 簡単に操作できる楽器(ツリーチャイム、カバサ、鈴等を振ったり、揺らしたり、こすったりして音を出すこと)、木琴、鉄琴、和楽器、諸外国に伝わる様々な楽器</p> <p>音楽づくり 多様な音:既製の楽器、自分の体を叩いたり、音や床や壁を踏みしめたりして出る音など ※つくった音楽については、指導のねらいに即し、必要に応じて記録できるようにすること(絵、図など) ※拍のないリズム、我が国の音楽に使われている音階や調性にとらわれない音階などを児童の実態に応じて取り上げる。</p> <p>※必要に応じてコンピュータや教育機器を効果的に活用する。 例:演奏をICレコーダーに録音し、曲や演奏の楽しさに気付くようにすること ※学校内における音楽活動とのつながりを意識できるような機会を作り、生活や社会の中の音や音楽と主体的に関わっていくこと</p>